

NOW

Vol.53 2025年 秋号

ストック 花言葉:「永遠の愛」「強い絆」

2025年度の主な事業予定
(後半)

12月10日(水) 4委員会合同忘年会

2026年

1月21日(水) 新年互礼会

2月12日(木) 【大阪府女性会連合会】研修交流会

2月25日(水) 経営事例発表会

3月 【関西女性会連合会】理事会・会長会議

大阪商工会議所女性会2025年度通常総会・講演会

2025年6月26日 帝国ホテル大阪「エンパイアルーム」

大阪商工会議所女性会2025年度通常総会が、6月26日(木)帝国ホテル大阪にて開催されました。総会では、2024年度の事業報告および収支決算、2025年度の事業計画並びに収支予算案等、全ての議案について慎重に審議が行われ、いずれも滞りなく承認されました。

総会終了後は、大阪商工会議所 鳥井会頭のご発声のもと乾杯を行い、松花堂弁当をいただきながらテーブルごとに歓談しました。

食事の後は、大阪商工会議所副会頭で小野薬品工業株式会社 代表取締役会長CEO 相良暁氏によるご講演「300年企業のさらなる挑戦」を拝聴する機会を賜りました。

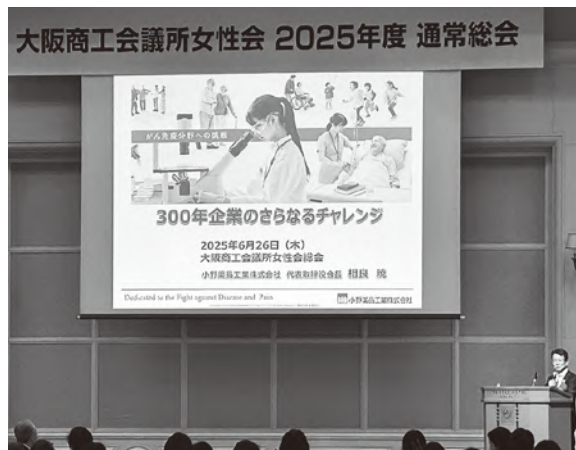
ご講演では、創業300年を目前に控えた同社の歩みとともに、医薬品開発という果てしなき挑戦に立ち向かう企業としての矜持と信念が、力強く語られました。プロスタグランジンの研究に端を発したその道のりは、卓越した研究者とのご縁を育み、やがて世界初の抗PD-1抗体医薬品「オプジーボ」へと結実したとのこと。企業理念である「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という言葉が、いかに深く息づいているかを実感いたしました。

一つの新薬が世に出るまでには、基礎研究から非臨床、臨床試験、さらには厳格な審査を経て、九年から十六年もの歳月を要し、費用も数百億円から数千億円規模にのぼること。しかも、その成功確率はわずか0.0032%。

それほどまでに過酷な環境のなかで成果を上げ続けてこられた背景には、研究者の方々のたゆまぬ努力と、企業としての強固な信念、そして社会的使命感があったことが、ひしひしと伝わってまいりました。

なかでも、「最高な人と関わることが成功への近道」とのお言葉が印象に残ります。志ある者同士が結びつき、高め合うことこそが、偉業の礎となる。小野薬品の長い歴史がそれを如実に物語っております。創業者・小野雄造氏の「小野薬品はドラマであり、詩である」との言葉のとおり、薬づくりは単なる技術の積み重ねではなく、人の命と真摯に向き合う尊い営みであることを再認識いたしました。深い感銘と敬意を抱かずにはいられない、実に気高く意義深いご講演でございました。

(歯科だんらび梅田院 代表 前田 瞳)



大阪府商工会議所女性会連合会 2025年度通常総会・講演会

2025年5月20日 リーガロイヤルホテル大阪「山楽の間」

5月20日(火)、13の女性会から116名がリーガロイヤルホテル大阪「山楽の間」に集い、大阪府商工会議所女性会連合会2025年通常総会が開催されました。式次第に従い、商工会議所女性会の歌の斉唱に続き、久保田会長の挨拶が行われました。本連合会が2001年に創設され、現在では16の女性会、780名の組織となっていること、大阪・関西万博では4月23日にウーマンズパビリオンで各国の女性リーダーをゲストに招き、企業経営と女性を考えるトークイベントを行い大変有意義だった事などが報告され、その後、議案審議へと進みました。また、議案の説明に先立ち久保田会長より2024年度は赤字決算となった件、2025年度の会費を増額する件などが説明されました。

第1号議案2024年度事業報告案、第2号議案2024年度収支決算案、第3号議案2025年度事業計画案、第4号議案2025年度収支予算案、第5号議案役員の選任について審議が行われ、全議案、全会一致で承認されました。

昼食会は奥野副会長の乾杯のご発声で始まりました。和泉市を知っていただけるイベントを開催した件、55年前と今回の万博と2回万博を体験されたことなどをお話されました。その後、リーガロイヤルホテル大阪様よりご提供いただいたスパークリングワインと共に、なだ万の松花堂弁当を味わいながら各テーブルで歓談しました。

昼食の後は、「公正取引委員会の最近の取組～価格転嫁円滑化施策を中心に～」という演題で、公正取引委員会事務総局近畿中国四国事務所の片桐一幸氏による講演がありました。公正取引委員会の役割についてのご説明の後、独占禁止法上問題となる行為の類型、価格転嫁円滑化の取組みに関する特別調査の結果や下請法の主な改正点などをお話いただきました。事業を推進する上で適正に価格転嫁することの重要性について学びました。最後は新井副会長から「やる気、本気、元気」この3つの気で頑張ってくださいと地域に貢献していきましょうと閉会のご挨拶があり、無事に閉会しました。



(株式会社ラジオ大阪 代表取締役社長 上野 慶子)

視察研修会

2025年10月29日～30日 陸前高田市、大船渡市



このたびの視察研修会には総勢27名の方にご参加いただきました。澄んだ秋空のもと、東北の地で学びと交流を重ねた二日間は、女性会ならではの温かい連帯感を実感する貴重な旅となりました。

初日は伊丹空港から仙台へ向かい、貸切バスでの移動中には、松島の海と島々の穏やかな景色を車窓から楽しみました。大阪よりもぐっと冷え込む空気が、東北の秋の深さを物語っていました。

津波伝承館では、震災で犠牲となられた方々に献花を捧げ、哀悼の意を表しました。胸の奥に深く刻まれる時間であり、地域が歩んできた復興の道のりに思いを寄せました。

続いて訪れたピーカンナッツ産業振興施設では、株式会社サロン・ド・ロワイヤル、陸前高田市、東京大学が手を携えて進める産官学連携プロジェクトについて学びました。日本の農業再生と地方創生をめざす「ピーカンナッツプロジェクト」の取り組み

は、地域の未来を切り開く力強さに満ち、参加者一同、大きな刺激を受けました。その後、高田まちなか会の施設を歩くと、各店舗の入口には「大阪商工会議所女性会歓迎」の張り紙が掲げられており、温かな心遣いに触れ、胸が熱くなる思いでした。

夕刻の懇親会には市長も駆けつけてくださり、地元の和太鼓の勇ましい演奏や、華やかな盛岡さんさ踊りが披露されました。会場は笑顔と拍手に包まれ、地域の文化に触れる心豊かなひとときとなりました。さらに、岩手商工会議所女性会顧問・田村さま、大阪商工会議所顧問・池上さまから、震災直後に故・尾崎名誉会長が「いま一番必要なのはキャッシュだ」と、どの団体よりも早く現金を届けたというエピソードが語られ、会場には深い感動が広がりました。「困ったときはお互いさま」という言葉が、静かに心に響く瞬間でした。

二日目は、まず酔仙酒造の見学から始まりました。震災で大きな被害を受けながらも、職人の方々が力を尽くして再建したという酒蔵は、建物の随所に復興の努力の跡が感じられました。また、大船渡山林火災跡を視察し、議会関係者からお話を伺う中でも、前へ進もうとする強い意志が込められ、心に強く残る見学となりました。

昼食会では、大船渡商工会議所・米谷会頭より「東日本大震災『負けてたまるか!!!』『BCPの備え』」と題した講演を賜り、復興の歩みと事業継続計画(BCP)の重要性について貴重なお話をいただきました。経営者として深く傾かされる内容が多く、参加者にとって大きな学びの時間となりました。

今回の視察研修会は、地域の皆さまの温かな心に触れ、復興への確かな歩みを間近に感じる旅でした。そして何より、女性会の仲間と過ごした時間が、互いに寄り添い、励まし合う力強い絆を改めて感じさせてくれました。

ご参加の皆さま、そして丁寧に準備を進めてくださった株式会社サロン・ド・ロワイヤル 前内さまに、心より感謝申し上げます。

今回の経験が、今後の活動を照らす力強い一歩となりますように。次回もまた、皆さまとともに学びと交流の旅ができますことを楽しみにしております。



(株式会社Ngrowing 代表取締役 古澤 みちよ)

『時間と共に変化を』



和田精密歯研株式会社
顧問

和田 江寛 様

和田精密歯研株式会社は1958年に設立、義歯や歯科技工を専門に発展してきた。創業者和田氏（義父）は戦後の国難な時代に「食べる喜びを取り戻す」という思いから事業を興した。独自の研究と技術開発を重ね、確かな品質と技術力で全国の歯科医院から信頼を得ている。現在では全国150営業所社員1300名を擁する企業へと成長した。二代目社長である江寛さんの御主人は新技術の導入や人材育成を重視、時代の変化に柔軟に対応。女性技工士の活躍促進、育児支援など環境整備にも力を注いでいる。

講演では、「今は人が会社の財産、変化を恐れず、いいものを取り入れることが成長の鍵」と語った。江寛さんは義父が留学し戦後にアメリカで技術を学びITの発展を肌で感じたことを振り返り、自身も上海出身ということもあり国際的な視野の重要性を強調。上海では若者が次々と新しい価値を生み出し社会全体がスピード感をもって進化している。一方で日本では長らく保守的な体質が残っていることを述べた上で「日本もこれから上海のように変化を恐れず柔軟に進化していくべき」と語った。最後に「会社の発展は人の成長と共にある、時代を読み変化を味方につける勇気を」と締めくくった。今まさに私たちの背中を推して前に進もうというメッセージである。

（株式会社プラス 代表取締役 藤田 裕）



『大源味噌 創業200年の挑戦』



株式会社大源味噌
代表取締役
室井 郁子 様

創業200年を迎える大源味噌は、初代・竹島平助様が大阪で創業し、全国・海外へ販路を広げた老舗味噌屋です。戦後、都市化の影響で蔵を手放し、販売を中心とする事業へと転換しました。

現代表の室井様は一度家業を離れて社会経験を積みましたが、元夫であった前代表の退任と親族の強い意向を受けて経営を継承する決意を固めました。引き継ぎ期間はわずか2ヶ月、経営経験もないなか、コロナ禍のダメージに加え、味噌の消費量が年々少しずつ減り続ける厳しい状況でのスタートでした。しかし、「100年先の次世代に味噌文化を継承する」という大きなビジョンを掲げ、改革に踏み出します。まず取り組んだのは社内の環境改善です。年間休日85日という過酷な状況を見直し、完全週休2日制や有給休暇取得の推進、給与・賞与制度の整備など、働く環境を大きく変えました。さらに育成プログラムを導入し、理念と行動指針を共有することで、社員一人ひとりが主体的に成長できる組織へと変化しました。これにより会社全体の意識が変わり、組織としての力も着実に強くなっていきました。また、発酵食品への注目が高まる中、外国人観光客に向けた英語講座の開講や、関西大学との共同研究による新たな発酵技術の開発にも挑戦し、海外からの来訪者も増え、日本の味噌文化への関心が高まっています。こうした取り組みの裏には、社員の離職や経営の不安定さといった多くの困難もありましたが、一つひとつ乗り越えることで組織力を高めていきました。近年は業績も回復し、多くの人々の支えのもと、伝統と革新を両立する企業として力強く前進しています。長い歴史を守るだけでなく、新しい価値を創造し、地域社会や次世代の人々へ発酵文化を受け継ぐ歩みを続けています。これからも挑戦を恐れず、進化し続ける企業でありたいと考えています。

【私の感想】発酵文化を未来へ継承するという明確な使命感に心を動かされました。伝統を大切にしながら、組織改革や新たな挑戦を続ける姿勢に深く共感し、次の時代へとつなぐ力強いリーダーシップを感じました。

（Intestinal therapy AKI 代表 高橋 亜希子）

大阪商工会議所女性会・京都商工会議所女性会交流会

2025年9月17日 今日庵、西陣魚新

2025年9月17日(水)、京都にて「大阪商工会議所女性会と京都商工会議所女性会との交流会」が開催され、両会の会員と事務局合わせて71名が参加し、親睦を深める有意義なひとときとなりました。午前中は京都・裏千家 今日庵(重要文化財)にて、茶道裏千家家元・千宗室様より喪中にもかかわらず「日々是好日」の言葉を通して、心豊かに暮らすことの大切さを学ぶ貴重なお話を拝聴しました。

その後、今日庵の茶室を見学し、呈茶をいただきながら歴代の家元好みの茶道具を拝見し、茶の湯の精神や歴史の重みを肌で感じながら穏やかな時間を過ごしました。

午後は京都商工会議所女性会会員・寺田博美様の料亭「西陣魚新」にて昼食交流会が行われました。

料亭は京都の伝統文化やおもてなしの心を大切にしており、天皇家や皇族の方も訪れる格式の高い老舗です。

開会には京都商工会議所女性会中村真由美会長、活動報告は、大阪商工会議所女性会田村節子副会長と京都商工会議所女性会坂下美保理事が行い、乾杯は京都商工会議所女性会鈴木美智子副会長が担当されました。各テーブルでは笑顔あふれる歓談が広がり、互いの活動内容や地域の取り組みについて意見交換を行う貴重な時間となりました。閉会の挨拶では大阪商工会議所女性会久保田光恵会長より、今後も両会が手を取り合い、互いに学び合いながら地域社会の発展に寄与していくことを確認し、交流会は盛会のうちに終了しました。伝統と格式の中にも温かいおもてなしの心が感じられる一日となり、参加者にとって忘れがたい経験となりました。

(株式会社 スマイル 取締役 川島 裕美)



歌舞伎公演 観劇会

2025年5月13日

2025年5月13日大阪南座で、薫風歌舞伎特別公演を鑑賞しました。万博記念公演でもあったのでミyakuchinのような猛者が登場し、また西遊記は馴染みのある物語なので分かりやすく笑いありのとても楽しい時間を過ごしました。その後がんこ寿司にて、歌舞伎の面白さや舞台の伝統的な装置などについて語らいながらランチを堪能しました。

(株式会社大幸産業 代表取締役社長 中島 緑)



委員会活動報告

広報委員会

講和

2025年4月10日(木)に、万博にも出店

したマレーシア料理店Adiningにて、グラングリーン大阪の成り立ちについて阪急阪神ビルマネジメント株式会社高田様にお話ししていただきました。広報委員と役員の方の参加もあり、大阪の新名所になるであろうグラングリーン大阪は多くのスポンサー企業により美しく保たれることなどを学びました。



納涼懇談会

2025年8月28日(木)に、納涼懇談会をリーガロイヤル大阪にて開催。



総務委員会

講和

2025年7月2日(水)に、万博のフューチャーライフエクスペリエンスにも出展されている京都大学の土佐尚子特定教授をお招きし「先端技術を活用した、アート・日本文化を融合した作品を生み出し、世界へ発信」の講話をお聞きました。委員会をまたいでの参加も多く、先生を交えての懇親会も大盛り上がり。「ブレない」「若い人と交わる」など経営戦略およびビジネスへのヒントをたくさん持ち帰ることができました。



組織委員会

視察会

第4回組織委員会では、2部構成(2025年8月19日(火)と9月30日(火))で国際がんセンターの

視察会を実施しました。トップレベルの医療現場において、最先端の技術を駆使して命を守る舞台裏を拝見し、携わるスタッフの皆様より丁寧なご説明とご案内をいただきました。

大阪城を一望できる病室をご紹介いただき、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や「ヒノトリ」の実演を見学、さらには操作体験も行いました。

また、調剤薬局では最先端の調剤ロボットや効率化された処方システムを拝見し、参加者一同、その精度とスピードに驚きと感動を覚えました。

医学の発展の先に、人間の未来がより美しく、豊かなものであってほしい――

そう感じさせてくれる貴重な視察会となりました。



企画委員会

近況報告会

活動はランチ付き委員会で10月の事例発表会の確認を行いました。

た。その後は楽しい近況報告会。いろんなお話が飛び出し、各委員同士の研鑽の場となりました。

事例発表会は2講師とも企画委員会のメンバーでとても良いお話でした。恒例の研修旅行は前内副委員長が数ヶ月かけての準備をサポートされ大成功でした。



編集後記

総会・歌舞伎・研修旅行と盛りだくさんの半年でした。

各会合では活発な意見が飛び交いより一層友好も深められた半年でした。

広報委員長 中島 緑